

果樹



10月・11月の柑橘園管理



果樹
原口 悠貴
下島宮農指導センター
080-2725-7775

1. 病害虫防除

品 種	防除時期	対象病害虫	農薬名	希釈倍数	使用回数	収穫前使用可能日数
温 州	収穫前	貯蔵病害	ベフラン液剤 混用	2,000 倍	2 回以内	前日まで
			ベンレート水和剤	4,000 倍	2 回以内	前日まで
	10/ 上～中旬	浮皮防止対策	シリカブロー	1,000 倍	—	
	10/ 中～11/ 上旬	浮皮防止対策	シリカブロー	1,000 倍	—	
中晩柑	10月中旬	黒 点 病	ナティーポフロアブル	1,500 倍	3 回以内	前日まで
	発生初期	褐色腐敗病	ジャストフィットフロアブル	5,000 倍	3 回以内	前日まで
共通	9月下旬 以降～ (発生時)	ミカンハダニ	ダニコングフロアブル	3,000 倍	1 回	前日まで
		ミカンハダニ サビダニ ホコリダニ	コロマイト水和剤	2,000 倍	2 回	7 日前まで
	発生時	カメムシ	スタークル顆粒水溶剤	2,000 倍	3 回	前日まで
			MR. ジョーカー水和剤	2,000 倍	2 回	14 日前まで

2. 施 肥

○通常タイプ

対象品種	肥料名	施肥時期	10a当たり	対象品種	肥料名	施肥時期	10a当たり
清見・甘夏・河内晩柑 パール柑・ボンカン	ニュー熊本果樹2号	11月上旬	3袋	デコポン	ニュー熊本果樹3号	11月上旬	3袋

3. 河内晩柑落果対策(10月)

1回目(1～2分着色時):マデックEW2,000倍+尿素500倍 2回目(1回目から20日後):マデックEW2,000倍+尿素500倍

4. 葉面散布

散布適期を逃さない様、貯蔵病害の薬剤散布前に単剤で行いましょう。

○ジベレリン液剤40mlの場合(0.5～1ppm)

対象品種	実施時期	薬剤名	使用濃度	1ビン当たりの水量	使用液量(10a 当り)	収穫前日数
デコポン	着色終期	ジベレリン液剤	0.5ppm	400ℓ	50～500ℓ	7日前まで
			1ppm	200ℓ		

野菜



抑制かぼちゃ今後の管理



野菜
小林 優介
下島宮農指導センター
080-1729-1635

1. 肥培管理

大玉果を生産するには約30枚程度葉数が必要となります。
追肥は、着果節位の雌花が開花直前にいき、2回目は着果確認後施用します。
追肥位置は、株元及び着果節周辺に行います。

2. 交配

着果位置は、1本仕立ての場合は13～15節に着果させます。下段着果は、小玉につながるため株元周辺の果実は必ず摘果しましょう。交配の時間は、授粉率を高めるために午前9時頃までに終わります。

3. 整枝・摘果

果実がソフトボールより少し大きく肥大したら、土に接している所にマットを敷きます。
着果節位以降は放任でもよいですが、摘心する場合は本葉15～20枚以上を残します。

4. 病害虫防除

害虫

農薬名	使用回数	使用時期	使用回数	対象害虫
カスケード乳剤	2000 倍	収穫前日	3回	ハモグリバエ
アフーム乳剤	2000 倍	収穫前日	2回	アザミウマ類
モスピラン顆粒水溶剤	2000～4000 倍	収穫前日	2回	アブラムシ、ウリハムシ

病害

着果時期又は朝夕涼しくなってくるとうどんこ病の発生が見えはじめます。

農薬名	使用回数	使用時期	使用回数	対象病害
トリフミン水和剤	3000～5000 倍	収穫前日	5 回	うどんこ病
イオウフロアブル	500 倍	収穫前日	制限なし	うどんこ病
ダコニール1000	1000 倍	収穫 7 日前	3 回	うどんこ病・べと病
Zボルドー	500 倍	収穫前日	制限なし	果実斑点細菌病

※うどんこ病が発生した場合は、薬量を多めにたっぷり洗い流すように散布してください。

※日中の高温時(30℃以上になる時)には薬剤の散布を避けてください

5. 収穫

交配後、50～55日(積算温度1000℃)程度を目安に収穫します。必ず1～数玉試し切りし、果肉の色がオレンジ色になっているか(黄色ではまだ早い)、種は充実しているかなど確認し、未熟果での収穫を避けてください。(腐敗の原因となります)

交配日が幅広い所については、分けて収穫を行います。
収穫後、生り口を短く切り返し、1週間程度陰干し乾燥させた後、土汚れなどを布でよく拭きあげます。

花卉



金魚草の管理について



花卉

竹川 慶剛
上島営農指導センター
080-1729-1637

1 摘心の前と後の液肥の葉面散布

摘心は主茎が10cm、本葉8～10枚程度に成長した時期に2節残して行う。

摘心の前と後に液肥の葉面散布

(肥料成分N:P₂O₅:K₂O=10:4:8、500～1,000希釈、2回)で株の充実及び側枝の発生を促す。



2 換気

ハウスは、日没後に閉める

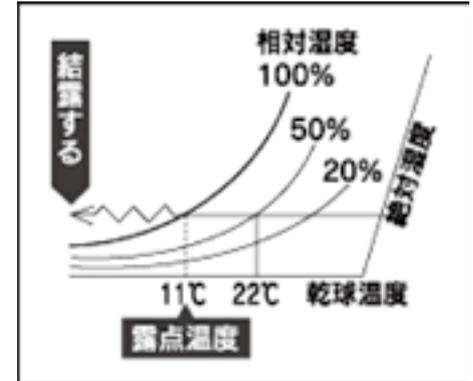
暖房によるハウス内気温の上昇は、湿度が低い方が効率よい(燃油消費削減)

温度	15℃	10℃
飽和水蒸気量 (決まった値)	12.8g/m ³	9.4g/m ³
絶対湿度(量)	9g/m ³	6.5g/m ³
相対湿度(割合)	70%	70%

この場合10℃だと相対湿度は、90%以上

気温は高いほど、空気中に水分を含むことができる。

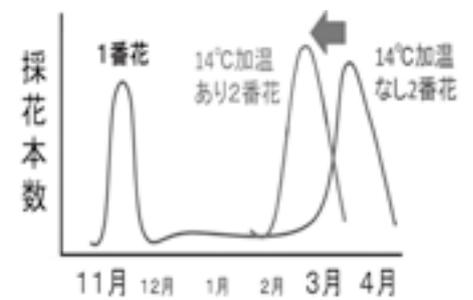
=空気中に含むことができる水分の量(飽和水蒸気量)は多い!



3 温度管理

加温機の温度設定:日没後2時間を14℃、その他の時間帯6℃

- ・キンギョソウは温度と日長に反応して花芽分化を行い春に花を咲かせる相対的長日植物。
- ・夜間5℃でも正常に生育する。花芽分化・発育を促すためには11℃以上の加温が好ましい。
- ・夜間6℃加温では花芽分化・発育が滞り、気候が良くなってからの開花となる。
⇒ 二番花の収穫時期が3月下旬～4月となる。
- ・キンギョソウでは、日没後の時間帯(17時～19時)を花芽分化・発育に適する温度で管理すると花芽分化・発育が促進されることがわかっている。
- ・二番花の切り花品質は、6℃の終日加温より切り花長は短くなるが、出荷規格の上位階級となる80cm以上の確保は可能。



畜産



暑熱ストレスからの飼養管理について



畜産

園田 遼海
下島営農指導センター
080-1795-9380

夏場の暑熱ストレス下において、牛は体温上昇に対する反応として「呼吸数の増加」「飲水量の増加」「飼料摂取量の低下」などにより、体内の熱放散促進と熱生産を減少させ、暑熱ストレスを緩和させます。

夏の終わりから秋にかけては、暑熱ストレスが徐々に緩和されていく時期です。増加した呼吸数や飲水量は気温の低下とともに元の水準に戻りますが、低下してしまった飼料摂取量が戻るには時間がかかります。そのため、秋の飼養管理においても、夏と同様に牛に負担をかけないように飼料摂取量を徐々に増やす必要があります。

対策

- ①清潔な飼槽・水槽で、新鮮な飼料・水を充分給与する。
- ②飼料の掃き寄せ回数・給与回数を増やす
- ③品質の良い粗飼料を給与する。または消化の良い繊維を含む飼料を給与する。

※配合飼料給与量を増やす場合は、ルーメンアシドーシス等のリスクを避けるため、粗飼料を充分食い込んでいることを確認し、その上で一回の給与量が多くなりすぎないように注意しましょう。

また、これから授精する牛は、分娩前後の時期に暑熱ストレスを受けていることが考えられ、その時の飼料摂取量の低下やホルモンバランスの崩れにより、繁殖サイクルが乱れやすくなっています。

飼料摂取量を回復させる管理と合せて、いつもより意識して毎朝夕、最低30分ずつ発情兆候観察を実施して、発情の見逃しを防ぎ、一年一産を目指して管理に努めましょう。